

1. 広域連携の方向性を問う

足柄上郡5町全体の総人口は、平成27年の国勢調査では65,620人であったものが、社会保障・人口問題研究所の推計では2040年には51,420人まで減少するものとされており、今後25年間で約21%の人口減少が予測されている。

このような状況において、圏域の活力を維持していくためには、各町が個別のまちづくりを展開するだけでなく、広域連携による政策的な発展や事務の効率化を図りながら、地域づくりを進めていくことが必要不可欠である。

足柄上郡5町では、県西地域の広域連携など圏域のあり方について調査研究を進め、平成29年3月に「足柄上郡5町における広域連携に関する調査研究報告書（中間とりまとめ）」を発表した。

その後、5町は「あしがら地域創生推進連携協議会」を立ち上げ、平成30年3月に「あしがら地域広域ビジョン」を発表した。この中で、町政運営の最上位の計画として、今後のまちづくりの方向を定める総合計画の策定時に、本ビジョンの実現に向けた施策の具体化に努めるとした。

このような背景を受けて、平成31年1月に第五次開成町総合計画後期基本計画を策定した本町では広域連携の方向性をどう考えているか問う。